



防潮堤計画と気仙沼市民の動き

Sea Wall Project and Civic Action of Kesennuma City

2016. 10. 27

General Incorporated Association

Project Rias

JCC-DRR Green Infrastructure Working Group

宮城県気仙沼市



人口：66,000人
(震災前：74,000人)

リアス式の美しい地形を持ち、漁業と観光を主な産業にもつ世界有数の港町



東日本大震災

2011年3月11日PM 2:46

激震災害の発生。東北地方太平洋沿岸部に10m超える巨大津波が襲う。建物被害は全半壊合わせ30万戸以上、死者・行方不明者合わせて2万人近い命が失われた。

気仙沼市の被害(2016年2月29日現在)

人的被害:1359人

被災世帯数:9500世帯

避難者数:2万人

建物被害:16,000棟

被災事業所:3,300事業所(全体の80%)





L1対応の防潮堤

東日本大震災のような1000年に一度の津波をL2津波。

数十年から百数十年に一度の津波をL1津波と分類し、現在被災地に建設予定の防潮堤はL1の規模の津波を防ぐ高さに設定されている。

三陸沿岸ではL1防潮堤でも10mから15mの高さになることもある。

防潮堤を勉強する会

URL : seawall.info

賛成反対の議論が激化するなか、まずは**中立な立場で防潮堤計画を勉強することを目的**として、2012年7月市民有志が発起人となり本会を結成。各行政機関の方や専門家の方を講師に招き、8月から10月半ばまでに13回の勉強会を開催。述べ2500人以上の方が参加した。



防潮堤を勉強する会(スケジュール)

勉強会 テーマ					
日	曜日	テーマ・講師	日	曜日	テーマ・講師
2013/4/6	Sat	第14回勉強会 18:00～／市民会館中ホール 講師：(講師:東北大学名誉教授 首藤伸夫)	8月24日	Fri	第5回勉強会 18:00～ ①各地域の現在の状況と課題を共有する。(気仙沼、鹿折、唐桑、小原木、松岩) ②浜々の状況についてそれぞれの地域から現状について報告していただく。
10月18日	Thu	第13回勉強会 報告会 18:00～／ワンテン大ホール ① 中間報告会 ② 市長との意見交換「防潮堤の各課題への取り組みと、防災のまちづくり」	8月19日	Sun	第4回勉強会 15:00～ ①各地域の現在の状況と課題を共有する。(小泉、津谷、大谷、階上、面瀬、大) ②浜々の状況についてそれぞれの地域から現状について報告していただく。
10月3日	Wed	第12回勉強会 18:00～／ワンテン大ホール ① 勉強会のまとめ「分かったことと課題 市長への質問」	8月16日	Thu	第3回勉強会 1.13:00～／ワンテン大ホール 2.16:00～／ " 1-① 市域防潮堤計画の全体像と地区説明会からの課題 講師：県土木部ほか海岸管理者 1-② 防潮と合わせた防災整備計画について 講師：気仙沼市 2-① 浮上式堤防の検証 講師：大林組他 2-② パターン別防潮堤の検証 講師：日本大学理工学部 岡田智秀教授 早稲田大学創造理工学部 佐々木葉教授 市長との意見交換
9月27日	Thu	第11回勉強会 16:00～／本郷 アーバン ①「巨大堤防の検証と国の考え方、津波防災の考え方」 講師：東北大学教授 大学院工学研究科 教授 今村文彦氏	8月14日	Tue	第2回勉強会 15:00～／ ワンテン大ホール 「防潮堤、国の考え方と県・市の役割」代議士として考える圏域の最良の方向性 講師：代議士の立場から 小野寺五典衆議院議員 「背後地利用によるパターン別防潮堤の考察」 講師：(公財)ひょうご震災記念21世紀研究機構)人と防災未来センター 研究部 研究主幹 紅谷昇平氏
9月18日	Tue	第10回勉強会 18:00～／ワンテン大ホール ① 仮題・「防潮堤とまちづくり、今後の進め方」講師：東北大学 准教授 平野勝也氏	8月8日	Wed	第1回勉強会 18:00～／魚市場3階会議室 勉強会の趣旨説明 ①「基本的な流れとルール」 講師：宮城県土木部ほか ②「議会で取り上げている経緯」 講師：宮城県議会議員 畠山和純氏
9月14日	Fri	第9回勉強会 18:00～／健康センターすこやか ①「砂浜地形変化メカニズムと防潮堤の影響」 講師：東北大学 災害科学国際研究所 准教授 有働恵子氏 ②「奥尻町に学ぶ、防潮堤建設の経緯とその後の影響」 講師：北海道大学 地震火山研究観測センター助教 定池祐季氏	8月5日	Sun	発起人会 15:00～／ワンテン大ホール ①設立趣意書の説明 ②計画案の説明 ③スケジュール案の提示 8/6(月)記者発表 於：市役所記者クラブ
9月11日	Tue	第8回勉強会 18:00～／気仙沼小体育館 仮題・「ワークショップ『守るべきものは何か?』から体感する合意形成」 講師：特定非営利 NPO研修センター 代表 世古一穂氏			
9月3日	Mon	第7回勉強会 18:00～／ワンテン大ホール 仮題・「防潮堤を含む復興への議会の取り組みと、今後の勉強会との協働の方法」 講師：気仙沼市議会 東日本大震災調査特別委員会委員はじめ市議会議員			
8月29日	Wed	第6回勉強会 18:00～ ①「防潮堤の法的制度・功罪、今後の選択肢の可能性」 講師：関西学院大学 教授 長峰純一氏 ② 支援専門家の紹介、共有 講師：各専門家(合意形成、3D、フォレストベンチ、CGなど)			

ホームページ(URL) : seawall.info

気仙沼市における防潮堤建設に関する 要 望 書

要望書の提出

勉強会から見えてきた課題をもとに、
要望書を作成。2012年11月から12
月にかけて、宮城県や気仙沼市、及
び各行政機関に提出を行った。

要請事項

- ① 地域の多様性/実情に合わせた整備
- ② 住民意見の反映・住民合意の尊重
- ③ 複数案の選択肢を提示
- ④ 分かり易い情報提供 / 透明性の確保
- ⑤ 総合的な防災計画としての整備

美しく青い海と緑溢れる大地に恵まれた気仙沼。古(いにしえ)の時代から、この地に住む私たちは家族を養い、暮らしを立てるために海と生きてきました。海は常に身近にあり、磯の匂いや波の音、海で働く人々の活気溢れる生活がそこに存在しています。海はまさに、私たちの生活の一部であり、かけがえのない財産です。

海は時に私たちに大きな災厄をもたらしします。これまで何度となく地域を襲った津波災害は、私たちから多くのものを奪いました。しかしながら、私たちはそれでもその海を愛し、覚悟を持って海と共に生きる未来を選択します。この選択をする上で、津波災害への備えは 未来永劫に万全でなければなりません。

津波防災はただ一つの防災機能によって実現可能なものではありません。複合的な防災機能が合致し、理想的に連動して初めて実現するものです。防潮堤は津波防災機能の一つですが、全てではありません。最良の津波防災対策を実現していくためには、防潮堤の持つ防災効果を熟知し、同時に弱点や地域生活、地域文化への影響等を熟考する必要があると考えます。そして、かけがえのない財産、この地で生きていく住民の生きる糧、エネルギーの源を失う 事の無い様な結果を導き出さなければなりません。

今回、決定される防潮堤建設は地域の未来を大きく左右することとなります。私たち防潮堤を勉強する会は、復旧・復興を遅らせることなくしかしこの重大な意思決定のプロセスに 住民が積極的に関わり住民自らが意思決定を行うために 13 回にわたる住民主体の勉強会を開催し、今般の防潮堤建設計画に関し多角的に検討を進めて参りました。

その成果を受け、私たち防潮堤を勉強する会発起人一同は、後世に遺恨、後悔を残さぬよう、私たちの子孫に、安全・安心な暮らしと先人たちが守り続けてきた気仙沼らしい環境・景観そして文化を残すために、防潮堤建設事業の各主体者に対し以下の要望を致します。

記

- 一、 今回の被災地域の多様性を考慮し、一律に設計高に従った防潮堤を建設するのではなく、地域の実情に合わせた防潮堤の整備を要望いたします。
- 一、 防潮堤の形状、位置及び高さの決定に際しては、海岸法や宮城県議会の決議等に盛り込まれている住民意見の反映・住民合意の尊重を必ず遵守していただくことを要望いたします。
- 一、 合意形成にあたっては、一つの案に対して是非ではなく複数の選択肢を用意していただくことを要望いたします。
- 一、 住民が選択し易い、考え提案し易い環境づくりのためのわかりやすい情報提供、各説明会・意見交換会・設計・施工などの日程の早い段階での明示及び周知の徹底など説明会から建設までのプロセスにおいて、透明性の確保を要望いたします。
- 一、 防潮堤建設計画のみならず、市域の総合的な防災計画を早期に示していただくことを要望いたします。

以上

防潮堤を勉強する会の成果

- ・防潮堤計画のいくつかの課題が改善された
- ・市民が防潮堤に対する多角的な知識を得た
(勉強会の一般公開/HPによる資料・議事録の公開)
- ・市民を行政と対等な立場へと押し上げた
(各種メディアにより防潮堤計画は社会の注目を浴びる)





大谷地区



人口3700人(自治会数13)。大谷海岸という1kmに渡る砂浜を有し、震災前は日本の水浴場55選、快水浴場88選、水浴場百選に選ばれるなど、海水浴場として地域内外から愛される場所であった。





大谷海岸

気仙沼市大谷海岸に当初建設が予定されていた防潮堤は高さ9.8m・底辺幅40m、断面が台形型のコンクリートによる防潮堤。



要請文書

署名活動

防潮堤の計画を受け、大谷地区振興
会連絡協議会は、大谷海岸における防潮堤計画の一時停止と住民の意見の
反映を求めた署名活動を展開。その結
果人口3700人のうち1324人が署名し、
要望書とともに2012年11月に気仙沼市
長へ提出された。

■ 趣旨

気仙沼市本吉町の大谷海岸は宮城県北部に位置し、遠浅の美しい砂浜や風光明媚な風景に、震災以前は地域内外から数多くの海水浴客や観光客が訪れていました。

今現在、本吉町大谷海岸に高さ 9.8m のコンクリートの防潮堤を築く計画が住民との十分な意見交換が行われないまま、進められています。大谷海岸は大谷に住む全ての人々が愛する大谷の象徴です。その象徴たる大谷海岸が失われようとしています。再び訪れる津波の被害を防ぐという理由のため、岩手、宮城、福島被災地のほぼ全ての沿岸部に、高い防潮堤を築く計画があります。被災地の景観は著しく失われ、沿岸部の生態系に多大なる影響を及ぼすこととなります。また、この計画はいずれ日本の沿岸部の大部分を高い防潮堤で囲んで行くという方向性を示すものにほかなりません。

海の見えない高い防潮堤を築いた場合、海のそばで生まれながらにして、海を感じることで育ち、海を感じる力を持つ子供が育ちます。世代を超え命が育まれるなかで、そこに住む人々の中から自然を感じる力は消失してしまいます。海を感じることで育ち、海を感じる力を持つ子供に、どのようにして津波の危険性を継承していくのでしょうか。遠い未来、これから建設が予定されている防潮堤の高さを凌ぐ津波が押し寄せた場合、我々は成すすべなく、また多大なる被害を受けることとなります。

私たちはこの地で暮らす人々とその子孫の暮らし、そして人命を守り、美しい海岸線の風景と豊かな自然を後世に残していくため、現在進行している防潮堤の計画の停止と見直しを要請します。

■ 要請事項

1. 東日本大震災による復旧事業として、気仙沼市本吉町大谷海岸(大谷海水浴場)に新たにできる高さ9.8mの防潮堤の計画の進行の停止を要請する。
2. 防潮堤の高さや形、位置などについて、行政と住民が十分に協議し、住民の意見を反映させた新たな沿岸部の形として、計画に移し実施することを要請する。

[illegible]

※いただいた署名は気仙沼市長に提出する目的のみで使用するもので、他の目的には一切使用しません。
※氏名・住所は必ず黒のボールペンでご記入下さい。また「同上」や「/」のように省略せずお書き下さい。

署名集約先：所属振興会の班長様へお届けください。
問い合わせ先：



震災復興計画の作成

2012年7月末から9月末にかけて旧本吉町内の15地域振興会(自治会)を対象にした復興計画づくり。大谷海岸は地域全体の財産であることを確認し、防潮堤は砂浜の上にはつくりず砂浜を残す意思決定がなされ、平成24年11月に気仙沼市長へ提出された。



大谷まちづくり勉強会

大谷地区の20代から30代が中心となり大谷の震災復興計画から新しい大谷海岸を考える勉強会を開催。その結果を各振興会(各自治会)へ提言。その後はコミュニティ活動へ動きをシフトする。



あなたの思う**未来**の**大谷海岸**は どんなところですか？

2回の勉強会を通して集めた意見をもとに、住民の望む新しい大谷海岸の使い方を大谷振興会連絡協議会と気仙沼市に提案したいと思います。

第1回

1/22 (火)

時間 : 19:00~ (18:30 開場) 大谷公民館にて

テーマ : 「**これまでの大谷海岸の役割と思い出**」

内容 : 映像や写真を見ながら、大谷海岸の思い出や歴史について意見を出し合います。

第2回

2/10 (日)

時間 : 19:00~ (18:30 開場) 大谷公民館にて

テーマ : 「**これからの大谷海岸**」

内容 : 1回目の勉強会で出た意見をもとに、これからの大谷海岸の使い方を考えます。

※ 両日とも**なつかしの大谷の写真などを展示**しております。
18:30より開場いたしますので、どうぞご覧ください。



【主催】 大谷まちづくり勉強会

【協力】 大谷地区振興会連絡協議会
本吉町地域協議会 早稲田大学
(公社) シャンティ国際ボランティア会

事務局 (三浦友幸) : 080-1253-0837

Facebook ページ (大谷まちづくり勉強会)

<http://www.facebook.com/ooya.machidukuri>





まち 大谷里海づくり 検討委員会



2014年9月に結成。大谷地区の若い世代
が中心のまちづくり協議会。30名の委員
のうち8割が20代から40代。大谷地区振
興会連絡協議会から、大谷海岸周辺の
整備計画の検討を任せられる。







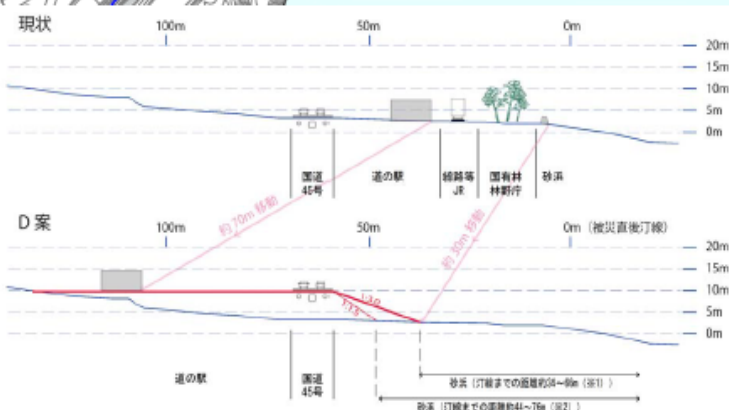
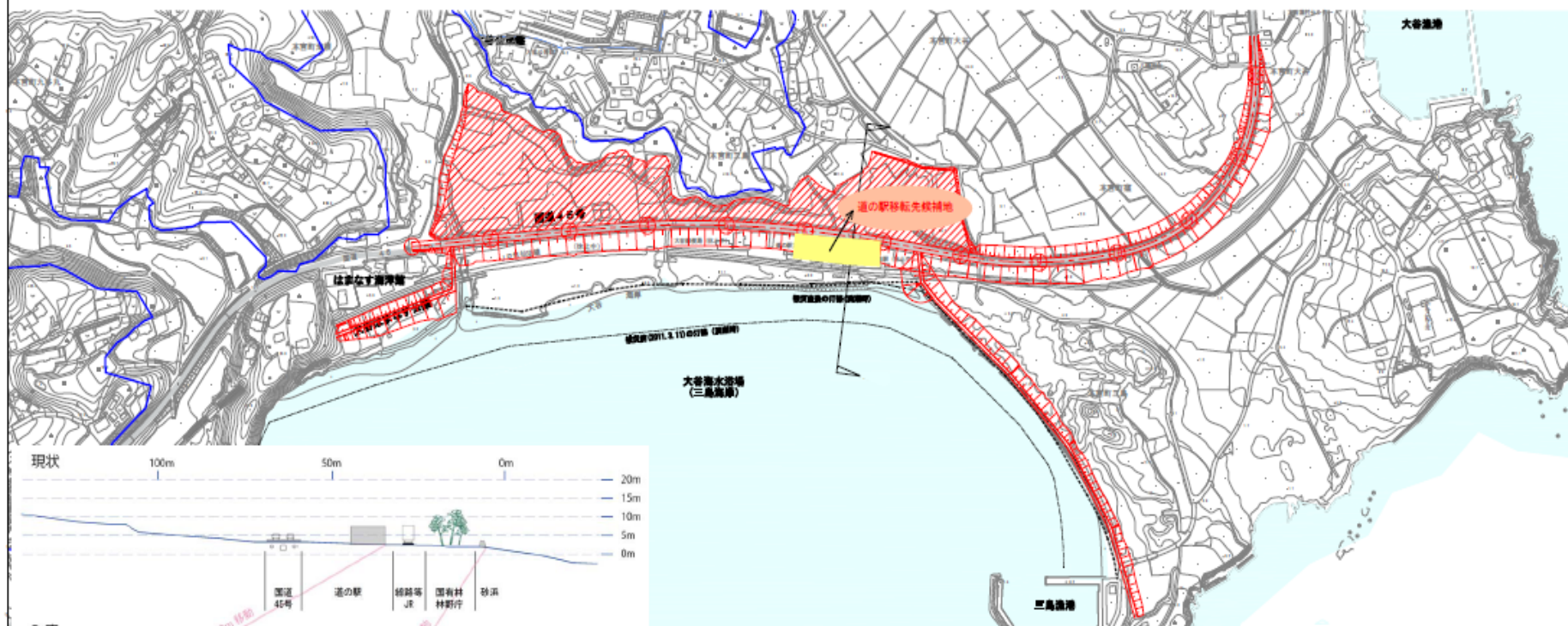
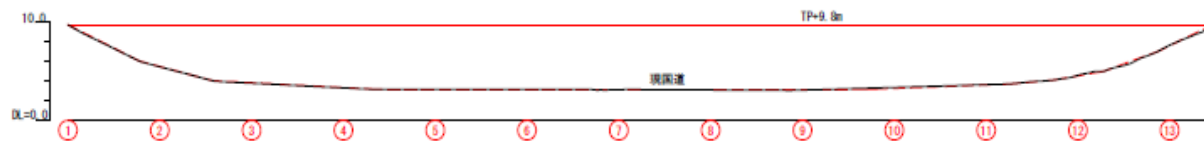
行政説明会

(対象: 振興会と検討委員会)

大谷海水浴場（三島海岸）計画平面図（D案）

S=1:5,000

縦断図 - D案



2014年12月、振興会と検討委員会を対象にした行政説明会。はじめて国道かさ上げ案が示されたが、実現の可能性がほとんどないとの説明であった。

0 50 100 250 500
S=1:5,000







大谷海岸

私たち大切にしたいこと
未来につなげたいこと

住民が考えた大谷海岸の復興計画

1. 海・環境.....海と里を守り続け、その双方の資源を生かし合い、子どもたちにこの素晴らしさを伝え続けます。
2. にぎわい・観光.....海水浴場や道の駅などを活用し、大谷の「にぎわいづくりと観光復活」を目指します。
3. 人・コミュニティ.....地域の多世代のつながりをこれからも大切にして、集い協力してコミュニティを育みます。
4. 防災・減災.....かさ上げや避難道などの防災整備においては、安全と地域資源の活用を十分に考えた上で、全体デザインを各関係者ととも考えていきます。
5. その他.....「大谷らしさ」を大事にして、多様な人たちと対話しながら復興のまちづくりを進めます。



<復興イメージの紹介>

- ・海岸線の①砂浜は大谷のみんなが大事にしているので、できる限り幅広く三島漁港までしっかり確保する。
- ・旧駐在所から海洋館までの②国道をかさ上げして防潮堤を兼ねる。また③背後地もかさ上げする。
- ・漁協前のエリアに、にぎわいの拠点となる④道の駅を移設。海水浴場の⑤駐車場と子どもたちの遊び場になる⑥多目的広場も併設する。
- ・三島漁港側から国道に続く⑦市道をかさ上げし防潮堤を兼ねる。砂の丘の自然をできるだけ残し、⑧ディキャンプ場や憩いの場を整備する。
- ・海洋館前の⑨防波堤は原型復旧し、ハマボウフウやハマナスなどの⑩海浜植物公園とする。
- ・国道と砂浜の間は、三島漁港側まで⑪緑化し、⑫遊歩道・サイクリングロードを設置する。また緑化地帯を守る⑬護岸を整備する。
- ・復興の丘に⑭憩いの場を造る。
- ・既存の人エリーフとあわせ⑮砂の流出防止の調査研究と対策を継続して実施する。

※ JR は路線が出されていないので、今回では記載しません

2015年8月、要望書と共に気仙沼市長へ提出

作成：大谷地区復興会議連絡協議会、大谷復興まちづくり検討委員会 発行日：2015年8月31日



住民説明会

2016年7月、大谷里海づくり
検討委員会も協力し大谷海
岸の整備計画に関する住民
説明を開催。防潮堤のセッ
トバック及び国道背後地の
かさ上げの実現した。



大谷地区のまちづくりの特徴

- 大切なものがはっきりしている
(地域のアイデンティティの確認)
- 信頼関係の構築
(対話できる関係性の構築)
- 共感度上げていく / 共通する思いの切取り
(共通言語を増やす / 部分的合意形成の切取り)







ご清聴ありがとうございました